

名古屋港管理組合 港務艇「ぽーとおぶなごや 2」による名古屋港見学会を実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、商船や造船所の見学会などを「船ってサイコ〜」と題し実施し、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力を入れております。

今般、名古屋港管理組合のご協力のもと、8月21日（火）に名古屋港において、港務艇「ぽーとおぶなごや 2」による港内見学会を開催し、一般公募の小学生の親子や中日海洋少年団、四日市海洋少年団など計 30 名が参加しました。

当日は、同組合 安井誘致推進係長の案内のもと、クイズを交えて、港の役割や船による輸出入の重要性に関する説明を受けながら名古屋港を航行しました。

船上からは、岸壁に停泊しているコンテナ船や自動車専用船のほか、航行中のばら積み船や LNG 船などの大型船舶を海側から見ることで、同時に、建造中の LNG 船やガントリークレーンを輸送する専用船など、珍しい船種を目の当たりにすることができ、参加者らは顔を窓に近づけて見入ったり写真に収めるなどして、興味深く観察している様子でした。



また、生活に必要な衣服・日用品・食品の多くや、電気・ガスをつくる元となる原材料のほとんどを船によって輸入していること等の説明を受け、参加した子供達が熱心にメモ取る姿が多く見られました。

さらに、専用船などによって運ばれる鉄鉱石や木材チップ、とうもろこし（コーンスターチ）、（瓶に入れられた）原油の実物を手にするなど、参加者は楽しみながら船の種類や港の役割について学ぶことができました。



体験乗船会後に実施したアンケートでは、「20ft コンテナが小学校の教室に 3 本入る大きさだ」という説明が印象に残った」「生活と港のかかわりがよく分かった」「子供の夏休みの自由研究に最適だと感じた」等の声が寄せられました。

港務艇下船後は、名古屋海洋博物館にて、海運・港湾の役割や名古屋港の歴史を学ぶとともに、操船やガントリークレーンのシミュレーターを体験することができました。

当協会は引き続き会員会社と連携し、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。